

玉川つばめ通信



題字・イラスト/金子伸子 デザイン/葉田いづみ 執筆/玉川大学地域創生プロジェクトメンバー 編集協力・発行/宇野津暢子 印刷/レトロ印刷jam
【お問い合わせ先】nu821@zj9.so-net.ne.jp ☎090-3473-3872 *玉川つばめ通信増刊号は4000部印刷し、玉川大学内と玉川学園地域に配布しています。

玉川学園で見つけた!

気になる場所訪問

DATA

町田市玉川学園7-12-26-1F
☎042-810-2062
利用日時…月～金曜
9:00～17:00(相談に応じて
個々のケースに対応します)
利用料金…1000円/1時間
最小利用単位は30分

玉川学園地区社協 玉ちゃんサービス



◆(玉川学園の南口から5分とかならない事務所をお訪ねし)どんなサービスをされているのですか?

(代表の井上宮子さん)家の掃除や買い物の付き添い、電球の交換、庭の草取り、窓ふきといった日常生活の支援をします。有償のボランティアです。2017年4月から本格的に始めました。できないところだけをお助けするのが基本

私は地域の高齢者を支援する玉川学園地区社会協議会の「玉ちゃんサービス」に興味を持ちました。きっかけは祖母が病気で倒れたことでした。空き家を活用した「7丁目の名越さんち」にある事務所を訪ね、利用者のお宅も訪ねてみました。

玉川学園にこの歳 女子者が誕生します。名前はNCR E玉川学園、運営は西松地所、場所は6丁目道心寺の向かい、大学の正門からは目と鼻の先です。77室あるので、学生の住民が増えるはず。地域のみなさま、よろしくお願ひいたします!

こあいさつ 玉大生がつくる増刊号です



今回は発行人の宇野津暢子さんをお願いして、玉川大学の学生が、授業の一環で玉川つばめ通信をつくりました。

学生のなかには、家と大学を往復するだけの生活を送っている人も少なくありません。そんな玉大生にもまちのよさを伝えようと意気込んだのですが、私たち自身も知らないことばかり。それでも、たくさんの方に協力していただき、人の温かさに触れるなかで、このまちのことが大好きになりました。学生目線の玉川つばめ通信をお楽しみください。(深)



協力者にとっては利用者さんの「ありがとう」という言葉が一番の励みとかな



同じ家に定期的に通ううちに、どこに何があるかがわかかってきて、お手伝いがだんだんスムーズになるそう

で、高齢者の自立した生活を後押しします。住民同士の「お互いさま」の関係を築ければいいなと思っています。

◆仕組みを教えてください。

協力者にはまず事務所にきていただき、連絡先などを用紙に書いて登録してもらい、依頼を受けるとコーディネートが電話で調整します。協力者は53人、利用者は38人です(2018年11/30現在)。

◆学生の協力者はいますか?

今のところいません。協力者と利用者のマッチングを行う上で、協力者はたくさんいてほしいです。地域によってばらつきがあり協力者の数が十分ではないので、学生さんにも参加してほしいですね。

◆ネットでの展開は?

公式キャラクターである「おたがいタマ」や広報用のDVDもできて、YouTubeで公開中です。いずれは登録もWebの掲示板でできるようにしたいですね。先日は町5小の子どもたちもサービス

の体験に来てくれました。子どもたちは窓ガラスを拭くのに新聞紙を使うことに驚いていましたね。私たちも、利用者さんから昔ながらの知恵を学ぶことが多いです。

◆(93歳という利用者のお宅を訪ねました。依頼を定期的に受けている協力者のSさん)よろしくお願ひします。どこから始めますか?

最初はトイレ掃除から。最初にやればすぐトイレが使えますから。「掃除用の手袋を使って」と言われるんですが、毎週掃除しているの、私は素手でやっちゃいます。

◆お近くにお住まいですか?

歩いて5分くらいです。1時間のサービスに30分かけて通っていたら続かないです。近いから、続けられる。継続は大事です。

◆インターネットを使って協力者を募るようになりますか、もっと参加しやすいと思うんですが。

利用者の家が上がってサービスするので、安心、安全面である程度地域を知っていたり、近所の人だ

ったりしたほうがいい面があります。予定が合うからといって機械的には割り振れませんね。

◆(再び井上さんに)活動を通してどんなことを感じていますか?

地域のつながりって大切だなと思います。協力者の親と利用者が同じりハビリ施設に通っていたり、お子さんとお孫さんが知り合いだったり。近くに住んでいるからこそ、その話題もあり、地域の協力者が訪問することで、ひとりでは出歩けない人でも地域での様子を知ることができそうです。サービスを通して、地域に住む人々みんなが互いさまの関係であるということをも感じます。

◆そうですね。私も今回実際に体験してみても、利用者と協力者をつなぐコーディネートの大切さを実感しました。地域の人手で協力しあって生活すると、地域への愛着も湧いてきますね。まさに「おたがいタマ(お互いさま)」だと思います。今日はどうもありがとうございました。(湯)

編集後記

- おむすび食堂が行われた公園で、子どもたちと一緒に食事をし、思いっきり遊んで楽しい時間を過ごすことができました。紙面から、集まった人たちの温かさを感じてもらえればうれしいです。(佐々木梨乃)
- 伝えたいことがたくさんあり、載せる情報を絞って文章にまとめるのに苦労しました。取材で「ファインエステート」のマスターの温かさに触れることができ、このお店が一番好きになりました。(高原彩乃)
- さまざまな方のお話を聞くなかで、普段通学しているだけでは気づかないような取

- り組みや、まちの温かさが見えました。私も同じように地元を大切にしたいという気持ちになりました。(脇岡佑奈)
- 「玉川つばめ通信」の制作を通して、何気ない日常をいつもと違った角度から見つめられ、とても新鮮でした。まちを知ることができてきたことだと気付くことができ、よかったと感じています。(中川咲夏)
- 簡潔な表現で情報が正確に伝わるよう、言葉を吟味することが一番難しい作業でした。先生や仲間と議論するなかで適切な表現を見つけたときの喜びは想像以上で、そこに奥深さを感じました。(深澤隆史)

- 玉ちゃんサービスを通して、ネットでわからないことを地域との関わりの中で知ることができました。何かを知りたいと思ったら、地域に飛び込んでみるのが大切だと感じました。(湯川真由子)
- 卒業まであとわずかです。玉川学園の地を去るまでに黄みかんをおなかいっぱい食べて、胸いっぱいになりたい。そんな私の夢をかなえてくださるお宅がありましたらご連絡ください。(君島千尋)
- 駅の北口から学校の正門に向かう道の線路沿いには桜の木が何本あるでしょう? 正解は6本。これまでの4年間の大学生

- 活で全く関心を向けていなかったことに、目が向くようになりました。(半杭秀平)
- かつむり少年団は子どもの自主性、社会性を育てるための企画を練っています。これまで知りませんでした、地域をつなぐだけでなく、子どもの将来につながる活動だと思いました。(畑澤慶次)
- この授業のおかげで、まちとの関わり方に定まった形はないことを学びました。心の持ちようということです。自分に何ができるのかを常に意識することが大切だと思いました。(武藤匡司)